

# シチズン・オブ・ザ・イヤーは20周年を迎えました。

# CITIZEN OF THE YEAR SINCE 1990

## シチズン・オブ・ザ・イヤーとは？

市民社会に感動を与えた無名の人々を選び毎年その行動や活動などを称えています。

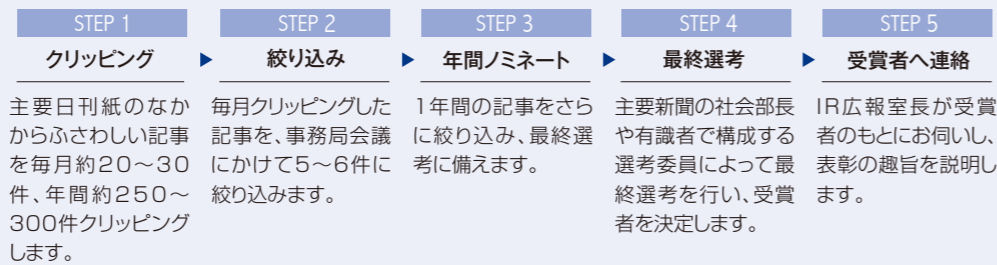
「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、市民に感動を与え、市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した市民を選び毎年顕彰する制度です。シチズン創立60周年に際し、広い視野から無名の市民を称える賞が見られなかったことから社名の「CITIZEN(市民)」にふさわしいものをと1990年に創設されました。これまで、日本人の方はもちろん、日本で市民社会に貢献された外国人の方も顕彰し、新聞やテレビなどでも紹介されている賞です。



2009年度の授賞式

### 選考方法

1年間に発行された主要日刊紙の記事の中から、シチズン・オブ・ザ・イヤー事務局が候補をノミネートします。その後、選考委員会にて候補者を対象に討議を行い、決定しています。



## これからもより良き企業をめざし、市民の良き活動をサポートしていきます

今から20年前「『市民に愛され市民に貢献する』という企業理念を具現化する、創立60周年にふさわしい企画はないか」——中島社長(当時)の問いかけに応じて広報室(当時)が提案したのが「シチズン・オブ・ザ・イヤー」です。当時はバブル絶頂期で、世間では「メセナ」と称して、派手なイベントが多く企画されていましたが、「シチズンらしさ」「社会性」「永続性」の3点を基本コンセプトに、地味でも継続することで社会に受け入れられる企画として、この賞は誕生しました。賞のコンセプトが当社の理念と風土にしっかり合致していたからこそ、20年間継続することができたのだと思っています。

歴代受賞者の皆さんの活動を改めて思い起こすと、一人ひとりの心温まる行為に感動するとともに、「良き社会は、大勢の良き市民に支えられている」ということを実感します。さまざまな価値観が急速に変化する時代にあっても、人による善行とその根底にある他者を思いやる気持ちは「不変の価値」なのではないでしょうか。CITIZENという社名を掲げるシチズングループは、今年創立80周年を迎えますが、市民社会の一員としてより良き企業をめざし、これからも良き市民をサポートし続けます。

シチズンホールディングス  
代表取締役社長  
金森 充行



## 2009年度の受賞者紹介

### 社会貢献活動

よしじま みきこ  
吉島 美樹子さん  
(48歳 青森県八戸市)  
「岩手ホスピスの会」事務局長



ガン治療による脱毛に悩む人に「タオル帽子」の型紙を作成し、贈り届けている



抗ガン剤の副作用で脱毛に苦しむ母親を案じた娘さんからの相談をきっかけに、タオルで帽子をつくることを発案。型紙をつくり見本の帽子と一緒に贈る活動を続けています。ご自身も30歳のとき血液のガン悪性リンパ腫を患い、副作用の脱毛で悩んだ経験を持ち、保育園の調理師をしながら「岩手ホスピスの会」を始め、タオル帽子づくりの講習会を地元で開始したのは2008年6月。タオル帽子は色や柄が選べる、肌にやさしい、洗いやすいという利用者の声が寄せられ、県外や医療関係者の参加も増えるなど、帽子づくりの輪は全国に広がっています。

### 自己実現活動

たいら みずき  
多良 泉己さん  
(34歳 神奈川県鎌倉市)  
北鎌倉 天使のパン・ケーキ職人



リハビリで始めたパンづくりが「天使のパン」として多くの人に勇気を与えている



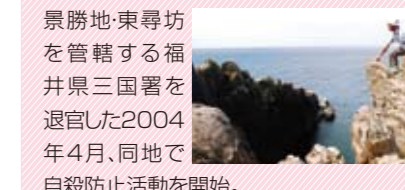
2005年8月競輪レース中の落車事故により全身麻痺で言葉も話せなくなったが、結婚したばかりの妻・綾子さんと力をあわせての懸命のリハビリを行い奇跡的な回復をとげ、その年の暮れに退院。指先と脳のリハビリに効果があると始めたのがパンづくり。2008年夏にはホームページで注文を受けはじめ「天使のパン」とよばれ口コミで評判となりました。すべてオーダーメイドで、朝4時に起きて1日につくれるのは3~5個。注文メールには病気のことや家族への思いを書き込んでくる人も多く、「癒されました」「生きる勇気がわいてきました」といった礼状もたくさん寄せられています。

### 人命救助活動

しげ ゆきお  
茂 幸雄さん  
(65歳 福井県坂井市)  
NPO法人  
「心に響く文集・編集局」代表



自殺を防ぐための相談所をつくり、パトロールと再出発支援を行う



景勝地・東尋坊を管轄する福井県三国署を退官した2004年4月、同地で自殺防止活動を開始。県警時代に、保護した初老の夫婦が数日後に、茂さん宛の手紙を残して心中するという体験をしたことが活動の原点。仲間20人程とNPO法人を設立し、空き店舗を借りて相談所を開き、午前中と日没後の2時間ずつ絶壁沿いに1周1.4キロを回るパトロールを実施。2010年1月末までに保護した人は232名。不況のせいか最近では経済的理由が多く30代男性が目につく。保護した後のケアにも取り組み、自殺志願者保護の全国レベルでのネットワークづくりにも取り組んでいます。

## 市民活動に光を当てる、誠実で意義ある賞 | 20年間選考委員長を務められた五代さんにお聞きしました。

### 市民活動を顕彰し続けてきた20年

1990年に創設されたシチズン・オブ・ザ・イヤーが、今年で20周年を迎えました。はじめてこの顕彰のお話を伺ったとき、いかにもシチズンらしい誠実な企画だと思ったことを覚えています。この賞は華やいた文化支援とは趣を異にし、社会貢献や自己実現を含む地道な市民活動に光を当てている点に魅力を感じます。この20年間、社会も暮らしもめまぐるしく変化してきましたが、シチズン賞に輝く人々の諸活動の原点は不変です。それを見出して顕彰することにこの賞の意義があるのだと思います。

### 若い市民の活動にもっと光を

20回に及び選考会を通じて、包み込むような温かさや、他者への思いやりや、自らを奮い立たせる勇気がどれだけの力を発揮するかを教えられました。それでも決定後「この活動が本当に一番ふさわしかったらどうか」という不安があります。毎回の受賞式ではその不安を払拭する素晴らしい方々にお目にかかり、それが何よりの喜びでした。

今後は若い人たちの動きも積極的に取り上げていただきたいと思います。地域社会のなかで多様な活動を展開している「若い市民の存在」を広く社会に伝える役割もシチズン賞に期待しています。

シチズン・オブ・ザ・イヤー  
選考委員会委員長  
評論家  
五代 利矢子さん

